

3年生

シラバス

(平成28年度科目概要)

# 兵庫県立東播工業高等学校 平成26年度入学生 教育課程表

第1学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
I 群 (機械科・電気科)	国語総合		地理A		数学I			科学と人間生活		体育			保健	音楽I	コミュニケーション英語I			家庭基礎	工業技術基礎			製図	情報技術基礎 ◇	電気基礎	HR					
II 群 (建築科・土木科)	国語総合		地理A		数学I			科学と人間生活		体育			保健	音楽I	コミュニケーション英語I			家庭基礎	工業技術基礎			実習	工業数理基礎	情報技術基礎 ◇	HR					

第2学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
機械科(M)	国語総合		世界史A		数学II			物理基礎		体育			保健	コミュニケーション英語II	家庭基礎	(選択) 日本史A 数学A 英語表現I			実習			製図	機械工作	機械設計	原動機	HR				
電気科 情報通信技術系(EI) 電気エネルギー技術系(EE)	国語総合		世界史A		数学II			物理基礎		体育			保健	コミュニケーション英語II	家庭基礎				自動車工学(M)			実習			電気基礎		電子回路	通信技術	HR	
建築科(A)	国語総合		世界史A		数学II			物理基礎		体育			保健	コミュニケーション英語II	家庭基礎	電子情報技術(EI) 電子技術(EE)			実習	製図		建築構造	建築構造設計	建築計画	HR					
土木科(P)	国語総合		世界史A		数学II			物理基礎		体育			保健	コミュニケーション英語II	家庭基礎	実習(A) 社会基盤工学(P)			実習			製図	測量	土木施工	土木基礎力学	HR				

第3学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
機械科(M)	現代文B		現代社会			数学II		体育		コミュニケーション英語II	(選択A) 日本史A* 数学B 生物基礎 英語会話 アンサンブルI		(選択B) 数学活用 フードデザイン		課題研究△			実習			製図	機械設計		HR						
電気科 情報通信技術系(EI) 電気エネルギー技術系(EE)	現代文B		現代社会			数学II		体育		コミュニケーション英語II	機械工作(M) ネットワークシステム(EI)		課題研究△			実習			製図	電気基礎	電子回路	電力技術	HR							
建築科(A)	現代文B		現代社会			数学II		体育		コミュニケーション英語II	生産システム技術(M) 電子計測制御(EI)		電子計測制御(EE)		課題研究△			実習	製図	建築構造	建築施工	建築法規	HR							
土木科(P)	現代文B		現代社会			数学II		体育		コミュニケーション英語II	電気機器(EE) 建築計画(A) 播磨の地質と耐震(P)		製図(A) 土木構造設計(P)		課題研究△			実習			製図	土木基礎力学	土木施工	HR						

◇ 情報技術基礎にて「情報の科学」を代替  
 △ 課題研究にて「総合的な学習」を代替  
 \* 2学年の選択で「日本史A」を履修したものは受講できない。

  : 必修科目

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
国語	現代文 B	3	3		○	○		
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
教科書『新編現代文 B』, 漢字ワーク『漢字ボックス』, 表現ワーク『パスポート国語必携』, 辞書, ノート								
科目概要	現代における韻文, 散文を読み, 豊かな教養と知識, 確かな読解力・表現力を身につけることを目的としている。 とくに漢字の正確な運用ができるように, 漢字ワークを利用した学習を実施する。 また, 自己を見つめ, 意見や考えをきちんと表現できるよう表現ワークを用いて学習する。	評価観点	興味意欲関心	内容に関連して積極的に言語活動を行い, 自らの考えを整理して述べ, 他者の意見・主張をきちんと受け入れる姿勢を持っている。				
			表現の能力	教材内容を正確に読み取り, その情報や考えを整理したことを話したり書いたりして表現できる。				
			理解の能力	幅広く文章に触れ, 他者の主張, 思い, 考えなどを聞いたり読んだりし, 筆者や話者が伝えようとすることを整理して理解できる。				
			知識理解	学習を通して, 文章の正確な理解や文学史・表現上の知識を身に付けるとともに, その背景にある文化などを把握している。				
前年度に履修すべき科目		—	評価方法	・定期考査, 課題考査 ・提出物 (休業中の課題・ワーク・ノート等) ・授業中の取り組み状況 以上の全てを総合的に判断して評価します。				
同時に履修すべき科目		—						
継続で履修すべき科目		—						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
公民	現代社会	3	3		○			
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
教科書, ファイル								
科目概要	現代社会の諸問題について, 政治・経済を中心に様々な観点から探求する。 また, 多角的な視点から考察し, 現代社会と自己との関わりに注目することで, いかに生きるのかを主体的に考える。	評価観点	興味意欲関心	現代社会の諸問題に対する関心を高め, 追求するとともに, よりよい社会づくりに貢献する態度を身につける。				
			表現の能力	現代社会の諸問題に関する課題を見出し考察し, 公正に判断する。また, 考察した過程や結果がうまく表現できる。				
			理解の能力	現代社会の基本的な問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し, 適切に情報活用する。				
			知識理解	現代社会の基本的な問題に関する事柄や学び方を理解し, その知識を身につけている。				
前年度に履修すべき科目		なし	評価方法	定期考査・平常点 ※平常点 (毎時間の提出物, 長期休業中課題, 授業態度等) 以上の全てを総合的に判断して評価を行う。				
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		—						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
地歴	(3年選択A) 日本史A	2	3		○			
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
教科書、日本史Aノート			3年生選択履修(2年生で履修したものは受講できません)					
科目概要	近現代史を中心とする我が国の歴史を学び、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を身につける。		評価観点	興味意欲 関心	歴史的事象に対する関心を深める。			
				表現の 能力	地図や統計、資料など諸資料から有用な情報を選択・活用することが出来る。			
				理解の 能力	各単元の流れを整理し、用語を体系的に理解する。			
				知識 理解	基本的な事項と関連させて、歴史を考察する基本的な方法を理解している。			
	評価方法		定期考査・平常点 ※平常点(毎時間の提出物、長期休業中課題、授業態度等)  以上の全てを総合的に判断して評価を行う。					
前年度に履修すべき科目		なし						
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		—						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
数学	数学Ⅱ	2	3		○	○		
教材・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
教科書、ノート、実用数学セミナー								
科目概要	数学的なもの見方や考え方を養うとともに、論理的思考力を身に付けられるように訓練します。 また、就職試験対策として、基本に戻って、計算問題や文章問題を解く力をのびます。		評価観点	興味意欲 関心	数学的活動を通して、考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に進んで活用しようとする。			
				表現の 能力	数学的活動を通して、数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考えとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。			
				理解の 能力	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する。			
				知識 理解	基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。			
	評価方法		1. 定期考査・課題考査により、数学的知識・思考・表現を確実に身につけているかを評価します。 2. 授業態度やノートなどの提出物により、関心・意欲・思考を評価します。					
前年度に履修すべき科目		数学Ⅱ						
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		—						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
数学	(3年選択A) 数学B	2	3		○	○		
教材・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
教科書・ノート・Study-Upノート数学B								
科目概要	「ベクトル」、「数列」について学習することを通じて、数学的なものの見方や考え方を養うとともに、論理的思考力を身に付けられるように訓練します。		評価観点	興味意欲関心	数学的活動を通して、各分野の考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に進んで活用しようとする。			
				表現の能力	数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考えとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。			
				理解の能力	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する。			
				知識理解	基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。			
		評価方法	1. 定期考査・課題考査により、数学的知識・思考・表現を確実に身につけているかを評価します。 2. 授業態度やノートなどの提出物により、関心・意欲・思考を評価します。					
前年度に履修すべき科目	数学Ⅱ							
同時に履修すべき科目	数学Ⅱ							
継続で履修すべき科目	—							

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
数学	(3年選択B) 数学活用	2	3		○	○		
教材・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
教科書、ノート、基礎から学ぶSPIベーシック問題集								
科目概要	数学と人間との関わりや、社会生活において数学が果たしている役割について理解させ、数学に対する興味・関心を高めるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し数学を活用する態度を育てます。		評価観点	興味意欲関心	数学的活動を通して、数学と人間のかかわりや社会生活において数学が果たしている役割に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、数学を事象の考察に活用しようとする。			
				表現の能力	数学的活動を通して、人間の活動の中で活用されている数学的な見方や考え方に気付き、事象を数理的にとらえ、論理的に考えとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。			
				理解の能力	人間の活動の中で活用されている数学を通して、事象を数理的に考察したり、推論の過程を数学的に表現し処理したりする方法を身につけている。			
				知識理解	数学と人間のかかわりや、社会生活において数学が果たしている役割を理解している。			
		評価方法	1. 定期考査・課題考査により、数学的知識・思考・表現を確実に身につけているかを評価します。 2. 授業態度やノートなどの提出物により、関心・意欲・思考を評価します。					
前年度に履修すべき科目	なし							
同時に履修すべき科目	なし							
継続で履修すべき科目	—							

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
理科	(3年選択A) 生物基礎	2	3		○	○	○	
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
教科書：新編生物基礎 問題集：プログレス								
科目概要	<p>もともと生物に興味関心のある生徒が選択しているため、意識的には高い。</p> <p>教科書にある内容を聞いたり理解するだけでなく、自ら興味を持った内容を深く知るために、本やインターネットを利用してさらに内容を深めてもらいたい。また、加古川市のプロジェクトにも参加し、植物の栽培を通じて新しい発見につながる取り組みにも挑戦してもらいたい。</p> <p>生き物の飼育・栽培には日々の活動が必要のため、途中で投げ出さないようにしっかり取り組んでもらいたいと考える。</p>		評価観点	興味意欲関心	生物現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的な態度を見に付けている。			
				表現の能力	実験の技能を修得するとともに、科学的に探究する方法を身に付け、そこから導き出した考えを的確に表現する。			
				理解の能力	実験・観察などを行うとともに、事象を論理的に考え、問題を解決し、事象にもとづいて科学的に判断する。			
				知識理解	観察や実験などを通して生物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。			
前年度に履修すべき科目		科学と人間生活		評価方法	考査・テスト関係 年間5回の定期考査 提出物 ノート、問題集、課題、実験レポートなど その他 授業（座学・実験）中の取り組み状況、発表内容  以上の全てを総合的に判断して評価します。			
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		—						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
保健体育	体育	2	3			○		
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
体操服・体育館シューズ等								
科目概要	<p>① 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動するとともに 公正協力責任や健康安全に留意する態度を身に付けます。</p> <p>② 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫する力を身につけます。</p> <p>③ 各種の運動技能や体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付け、運動の技能や体力を向上させます。</p> <p>④ 現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につけます。</p>		評価観点	興味意欲関心	運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るように自ら進んで計画的に運動しようとする。			
				思考判断	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。			
				運動の技能	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。			
				知識理解	運動技能の構造と運動の学び方など基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。			
前年度に履修すべき科目		体育		評価方法	授業への取り組み状況・授業内での実技テストなどを総合的に判断します。			
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		—						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態				
					講義	演習	実習	その他	
芸術	(3年選択A) アンサンブル I	2	3		○	○	○		
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など						
特になし(こちらで用意します)。									
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●様々な作品の鑑賞活動を通じて、様々な価値観・多様性の理解に努める。</li> <li>●声または楽器(ギター)等による表現活動を通じて、自らの思いを「伝える」だけでなく、他者の演奏に耳を傾けることにより、他者を「理解する」ことにもつなげて行きたい。</li> <li>●ピアノによる実技活動を通じて、上記のような情動的な効果だけでなく、将来にわたり音楽を愛好できるよう、具体的に曲を弾き、最後にそれぞれの演奏を聴きあう。</li> </ul>	評価観点	芸術鑑賞	積極的聴取を行うことができる。(感想も述べることができる)					
			芸術表現	自らの表現活動に参加し、かつ自分の思いをも表現しようと努力する。					
		評価方法	○平常授業時における授業への参加姿勢(ワークシートなどの提出物を含む)。						
			○実技、ペーパー等によるテスト(数回)。						
前年度に履修すべき科目	なし								
同時に履修すべき科目	なし								
継続で履修すべき科目	—								

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
英語	コミュニケーション英語Ⅱ	2	3		○	○		
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
英和辞典,ドリル『Starting Over English』 『完成ワーク英語』,教科書『COMETⅡ』								
科目概要	<p>コミュニケーション英語Ⅰで養った基礎的な能力を伸ばすことを目的とし、文法事項を中心とした英文を読み・書き・音読します。</p> <p>毎時間始業時に、5分間で辞書テストを実施します。辞書を用いて英語の意味を書きテストであり、辞書を忘れると解答できないので注意してください。</p>	評価観点	興味意欲関心	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。				
			表現の能力	幅広い話題について伝えたい情報や考えを整理し、英語で話したり書いたりして表現できる。				
		評価方法	理解の能力	幅広い話題について英語を聞いたり読んだりし、相手が伝えようとするのを整理して理解できる。				
			知識理解	学習を通して、英語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解している。				
前年度に履修すべき科目	コミュニケーション英語Ⅰ							
同時に履修すべき科目	なし							
継続で履修すべき科目	—							
			定期考査・課題考査 辞書テスト 提出物(休業中の課題・ワークブック・ファイル等) 授業中の取り組み状況  以上の全てを総合的に判断して評価します。					

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実技・発表	その他
英語	(3年選択A) 英語会話	2	3		○	○	○	
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
テキスト『Sailing English Conversation』								
科目概要	英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。 具体的言語活動は次の通り。 1 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に回答する。 2 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。 3 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。 4 海外での生活に必要な基本的な表現を使って会話する。	評価観点	興味意欲関心	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。				
			表現の能力	日常生活の身近な話題について、情報や考えなど自分が伝えたいことを英語で話して伝えている。				
			理解の能力	日常生活の身近な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようすることを理解している。				
			知識理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。				
前年度に履修すべき科目		コミュニケーション英語Ⅱ		評価方法	定期考査 提出物（ワークブック・ファイル等） 授業中の取り組み（プレゼンテーション）			
同時に履修すべき科目		なし			以上の全てを総合的に判断して評価します。			
継続で履修すべき科目		—						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
家庭	フードデザイン	2	3	16	○		○	
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
資料集『生活ハンドブック』、ファイル								
科目概要	・食生活に関する様々な角度からの知識とともに、食生活を楽しむための要素を学び、食生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。 ・この科目の学習においては特に実践的な学習に重点を置き、食生活に関する技術を習得し、自ら考え実践していく能力と態度を育てる。 ・全国高等学校家庭科食物調理技術検定3級の取得を目指す。（そのため、2年次での4級取得が条件である。）	評価観点	関心意欲態度	食生活について関心を持ち、食生活にかかわる知識と技術を習得し、食生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけることができたか。				
			思考判断表現	食生活について見直し、課題を見つけその解決を目指して適切に判断し、工夫し創造する力を身につけているか。				
			技能	食生活を向上させるため基礎的・基本的な技術を習得しているか。 食事の目的に合わせたテーブルコーディネートができるか。				
			知識理解	食品と栄養素についての知識と役割を理解し、食生活を充実向上させるために必要な知識を身につけているか。				
前年度に履修すべき科目		なし		評価方法	定期考査の点数、提出物の点数、制作物の点数、発展学習の点数、授業態度から総合的に判断して決定する。			
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		—						



教科 工業 (機械)	科目 課題研究	単位数 3	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
教材費・準備物等					進路との関係・系列タイプ・資格など			
一部材料費が必要である。								
科目 概要 要	【科目の目標】 工業に関する基礎的・基本的な学習の上に立って、工業に関する課題を生徒自らが設定し、自らその課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決に向けて意欲的に取り組む能力や自発的、創造的な学習態度を育てることである。  ①旋盤加工 ②空飛ぶ車椅子 ③溶接 ④自動車整備 ⑤メカニク ⑥C A D ⑦N C加工 ⑧ロボット	評価 観点 点	興味 意欲 関心	工業技術の活用能力の向上に意欲的に取り組み、工業技術を社会の発展に役立てようとする態度を身につけようとしているか。				
			表現の 能力	問題の解決を目指して自ら思考を深め基礎的・基本的な知識と技術を活用し創意工夫する能力・表現力を身につけようとしているか。				
			理解の 能力	課題の問題を解決する方法を理解し、自ら思考を深め創意工夫する能力を身につけているか。				
			知識 理解	ものづくりの意義や役割を理解し、工業技術に関する基本的な知識を身につけているか。				
前年度に履修すべき科目		なし		評価 方法	1. 製作・制作作品など 2. 作業日誌・レポートなど 3. 出席状況や授業態度（研究的に取り組む）など  以上の全てを総合的に判断して評価する。			
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		—						

教科 工業 (機械)	科目 実習	単位数 5	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
教材費・準備物等					進路との関係・系列タイプ・資格など			
材料費が必要である。								
科目 概要 要	【科目の目標】 工業の各専門分野に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。  【授業計画】  旋盤 計測・S E N C 溶接 熱機関 情報・C A D	評価 観点 点	興味 意欲 関心	実習に興味・関心を持ち自ら意欲的に取り組んでいるか。				
			表現の 能力	各ジョブにおいて、知識や技術を修得できたか。				
			理解の 能力	各ジョブにおいて、自ら学び思考し、判断をして、作業をしているか。				
			知識 理解	各ジョブにおいて総合的な知識を理解し、身につけられたか。				
前年度に履修すべき科目		実習		評価 方法	1. 実習課題の製作・実験結果等 2. レポートなどの提出物 3. 出席状況や授業態度  以上の全てを総合的に判断して評価する。			
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		—						

教科 工業 (機械)	科目 製図	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義 ○	演習 ○	実習 ○	その他
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
機械製図(実教出版)		機械製図検定に向けての学習						
科 目 概 要	図面作成 1 製作図のあらまし 2 図形の表し方 3 寸法記入・交差・面の肌 機械要素の製図 軸受 滑り軸受け 転がり軸受け 密封装置 歯車 歯車製図 平歯車・はすば歯車とやまば歯車 かさ歯車・ウォームギヤ 溶接継手 溶接継手の種類・溶接記号記載法 ばねの製図	評価 観 点	関心 意欲 態度  思考 判断  技能 表現  知識 理解	製図に関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。				
				製図に関して自ら思考を深めようとしているか。				
				機械製図に関する規格を守り製作図がかけるか。				
				製図に関する総合的な知識が身に付けられたか。				
前年度に履修すべき科目		製図		評価 方法				
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		—						

教科 工業 (機械)	科目 機械設計	単位数 3	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義 ○	演習 ○	実習	その他
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
教科書・ノート								
科 目 概 要	【科目のねらい】 機械設計に必要な物体に働く力や材料、機械装置とその要素などに関する基礎的な知識を習得させる。また、機械部品における、設計ができる能力と態度を育てる。 【授業計画】 第7章 歯車 1 回転運動の伝達 2 平歯車の基礎 3 平歯車の設計 4 その他の歯車 5 歯車伝達装置 第8章 巻掛け伝達装置 1 ベルトによる伝動 2 チェーンによる伝動 第9章 ブレーキ・ばね 1 ブレーキ 2 ばね 3 振動と緩衝装置 第10章 圧力容器と管路 1 圧力容器 2 管路 第11章 構造物 1 構造物 2 構造物の継手 第12章 器具・機械の設計 1 設計の要点 2 コンピュータの援用による設計 3 器具の設計例 4 機械の設計例	評価 観 点	興味 意欲 関心  表現の 能力  理解の 能力  知識 理解	機械設計に関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。				
				機械設計に関し、自ら思考を深めようとしているか。				
				機械設計に関する数値計算等の方法について理解できているか。				
				機械設計について、総合的な知識が身についているか。				
前年度に履修すべき科目		機械設計		評価 方法				
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		—						
				1 定期考査および課題考査・小テストなど 2 課題やノートなどの提出物 3 出席状況や授業態度など  以上の全てを総合的に判断して評価する。				

教科 工業 (機械)	科目 (3年選択A) 生産システム技術	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態						
					講義 ○	演習	実習	その他			
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など								
教科書・ノート・配布物を準備すること											
科目概要	<p>【科目のねらい】 生産システム技術に関する知識と技術を学び、実際の作業現場において既習した知識を活用できる能力と態度を身につける。</p> <p>【授業計画】 生産システム技術を学ぶにあたって 第7章 生産管理</p> <p>1 生産管理のあらまし 1-1 生産管理の概要 1-2 生産形態</p> <p>2 生産管理 2-1 生産計画 2-2 生産統制 2-3 品質管理 2-4 その他の管理 2-5 生産管理システムの手法</p>	評価観点	興味意欲 関心	生産システム技術に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。							
				評価方法	<p>1 定期考査, 小テスト 2 課題, プリント等の提出物 3 授業態度, 出席状況など</p> <p>以上の全てを総合的に判断して評価する。</p>	表現の 能力	生産システム技術について、自ら思考を深めようとしているか。				
							理解の 能力	生産システム技術に関連した数値計算の手法等が理解できたか。			
								知識 理解	生産システム技術に関して、総合的な知識が身についたか。		
前年度に履修すべき科目	なし										
同時に履修すべき科目	なし										
継続で履修すべき科目	—										

教科 工業 (機械)	科目 (3年選択B) 機械工作	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態						
					講義 ○	演習	実習	その他			
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など								
教科書・ノート・配布物を準備すること											
科目概要	<p>【科目のねらい】 材料の加工性や各種の工作法など機械工作に関する基礎的な知識や技術について理解させる。また、作業現場において、既習した知識を実際に活用できる能力と態度を育てる。</p> <p>【授業計画】 第3章 鋳造 第4章 溶接 第5章 塑性加工 第6章 表面処理 第7章 切削加工 第8章 砥粒加工と特殊加工 第9章 工業計測と計測用機器 第10章 生産の計画と管理 第11章 機械加工と生産の自動化</p>	評価観点	興味意欲 関心	機械工作に関心を持ち、意欲的に取り組んだるか。							
				評価方法	<p>1 定期考査, 小テスト 2 課題, プリント等の提出物 3 授業態度, 出席状況など</p> <p>以上の全てを総合的に判断して評価する。</p>	表現の 能力	機械工作について、自ら思考を深めようとしているか。				
							理解の 能力	機械工作に関連した数値計算等の手法が理解できているか。			
								知識 理解	機械工作に関して、総合的な知識が身についたか。		
前年度に履修すべき科目	機械工作										
同時に履修すべき科目	なし										
継続で履修すべき科目	—										

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (電気)	課題研究	3	3		○	○	○	
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
なし								
科目概要	工業に関する課題を生徒自らが設定し、自らその課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決に向けて意欲的に取り組む能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。		評価観点	興味意欲関心	産業社会を構築する技術について関心を持ち、工業技術の活用能力の向上に意欲的に取り組むとともに、工業技術を社会の発展に役立てようとする創造的・実践的な態度を身につける。			
				表現の能力	必要な情報及び情報手段を適切に活用する技術を身につけ、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現できる。			
				理解の能力	課題に関する諸問題の解決を行う方法を理解し、自ら思考を深め、創意工夫する能力を身につけている。			
				知識理解	ものづくりの意義や役割を理解し、工業技術に関する基礎的な知識を身につける。			
		評価方法	1. 授業への取り組み（学習活動への意欲・態度・創意工夫・出席状況） 2. 研究作品類の完成度 3. 成果発表の内容（表現力やプレゼン機器の活用能力） 4. 研究レポートの内容・提出状況					
前年度に履修すべき科目								
同時に履修すべき科目								
継続で履修すべき科目			—					

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (電気)	実習	4	3		○		○	
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
自作			情報通信技術系					
科目概要	<p>科目のねらい</p> <p>工業に関する基礎的技術を実験・実習による体験を通して各専門分野に関する知識と技術を習得する。また、工業の意義や役割を理解し、工業に関する広い視野を養うとともに、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース実習 データベースを作成し、帳簿やファイルなどを管理する技術の習得を目指す。</li> <li>・電気計測実習 ダイオード・トランジスタの特性を取ったり、オシロスコープで各種回路の波形を観測し、電子回路の特性を修得する。</li> <li>・PLC実習 制御分野でよく用いられるプログラマブル・ロジック・コントローラ（PLC）の使用法を習得する。</li> <li>・プレゼンテーション実習</li> </ul>		評価観点	関心意欲態度	工業の各分野に興味をもち、それらについて実験・実習を通して総合的に習得し、その結果を具体的な工業技術について創造的、実践的に活用する態度を身につけている。			
				思考判断表現	工業の各分野に関する諸現象について、観察や計算により判断・処理する基礎的な知識や技術を活用し、具体的な事象に対して深く考え、適切に判断し創意工夫する能力を身につけている。			
				技能	実験・実習について、総合的な考察を通して創意工夫し、新たな視点から応用発展的に捉え、実際に活用する能力と成果を的確に表現する実践的な態度をもち、工業技術として総合的に活用できる能力を身につけている。			
				知識理解	工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、工業の意義や役割を理解している。また、環境問題や工業技術の諸問題を主体的、合理的に解決するとともに、現代社会の工業の意義や役割を理解している。			
		評価方法	1. 実験・実習終了時に提出するレポートの内容およびこれらの提出状況 2. 制作実習で製作した作品 3. 授業への取り組み（学習活動への意欲・態度・出席状況）					
前年度に履修すべき科目			なし					
同時に履修すべき科目			なし					
継続で履修すべき科目			—					

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (電気)	実習	4	3		○		○	
教材費・準備物等					進路との関係・系列タイプ・資格など			
自作					電気エネルギー技術系			
科目概要	科目のねらい 工業に関する基礎的技術を実験・実習による体験を通して各専門分野に関する知識と技術を習得する。また、工業の意義や役割を理解し、工業に関する広い視野を養うとともに、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。 ・機器関係実習 変圧器の巻数比・極性の実験により変圧器の理論を学ぶ。三相誘導電動機の無負荷、短絡特性、並びに交流発電機に代表される三相同期発電機の運転法や特性試験から実験結果のグラフ等を作成し効率や特性を理解する。また各々の機器の取り扱い方を学習する。 ・P L C実習 制御分野でよく用いられるプログラマブル・ロジック・コントローラ（P L C）の使用法を習得する。 ・プレゼンテーション実習 パワーポイントを使ってプレゼンテーションの方法を修得する。 ・電気計測実習 ダイオード・トランジスタの特性を取ったり、オシロスコープで各種回路の波形を観測し、電子回路の特性を修得する。		評価観点	関心意欲態度	工業の各分野に興味をもち、それらについて実験・実習を通して総合的に習得し、その結果を具体的な工業技術について創造的、実践的に活用する態度を身につけている。			
				思考判断表現	工業の各分野に関する諸現象について、観察や計算により判断・処理する基礎的な知識や技術を活用し、具体的な事象に対して深く考え、適切に判断し創意工夫する能力を身につけている。			
				技能	実験・実習について、総合的な考察を通して創意工夫し、新たな視点から応用発展的に捉え、実際に活用する能力と成果を的確に表現する実践的な態度をもち、工業技術として総合的に活用できる能力を身につけている。			
				知識理解	工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、工業の意義や役割を理解している。また、環境問題や工業技術の諸問題を主体的、合理的に解決するとともに、現代社会の工業の意義や役割を理解している。			
		評価方法	1. 実験・実習終了時に提出するレポートの内容およびこれらの提出状況 2. 制作実習で制作した作品 3. 授業への取り組み（学習活動への意欲・態度・出席状況）					
前年度に履修すべき科目			なし					
同時に履修すべき科目			なし					
継続で履修すべき科目			—					

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (電気)	製図	2	3		○		○	
教材費・準備物等					進路との関係・系列タイプ・資格など			
7実教「工業303電気製図」								
科目概要	製図に関する日本工業規格および電気技術の分野の製図について基礎的な知識と技術を習得し、製作図・設計図などを正しく読み図面を構想し作成する能力を育てるとともに、C A D（コンピュータ支援設計）を活用した設計製図の基礎的な事項を含め、製図に関する基本的な知識と技術が学習できるようにつとめる。		評価観点	興味意欲関心	工業の各分野に興味をもち、それらについて製図を通して総合的に習得し、その結果を具体的な工業技術について創造的、実践的に活用する態度を身につけている。			
				表現の能力	工業の各分野に関する諸現象について、観察や計算により判断・処理する基礎的な知識や技術を活用し、具体的な事象に対して深く考え、適切に判断し創意工夫する能力を身につけている。			
				理解の能力	製図について、総合的な考察を通して創意工夫し、新たな視点から応用発展的に捉え、実際に活用する能力と成果を的確に表現する実践的な態度をもち、工業技術として総合的に活用できる能力を身につけている。			
				知識理解	工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、工業の意義や役割を理解している。また、環境問題や工業技術の諸問題を主体的、合理的に解決するとともに、現代社会の工業の意義や役割を理解している。			
		評価方法	1. 作成した図面の仕上がりと内容 2. 授業への取り組み（製図用具の使用法の理解・意欲・態度・出席状況）					
前年度に履修すべき科目			なし					
同時に履修すべき科目			なし					
継続で履修すべき科目			—					

教科 工業 (電気)	科目 電気基礎	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義 ○	演習 ○	実習	その他
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
電気基礎 (実教)								
科目概要	<p>・交流回路の計算 (記号法の取り扱い, 記号法による計算, 回路に関する定理)</p> <p>・三相交流 (三相交流, 三相電力, 回転磁界)</p> <p>・電気計測 (測定量の取り扱い, 電気計測の基礎, 基礎量の測定)</p> <p>・各種の波形 (非正弦波交流)</p> <p>・過渡現象</p> <p>について基礎的な知識を習得し, 活用できるようにする。また, T T により理解不足の生徒の学習を補う。</p>	評価観点	興味意欲関心	電気基礎に関する諸問題について関心を持ちその改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに創造的, 実践的な態度を身に付けている。				
			表現の能力	電気基礎に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め, 基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し, 創意工夫する能力を身に付けている。				
			理解の能力	電気基礎に関する基礎的・基本的な技術を身に付け, 環境に配慮し, 実際の仕事を合理的に計画し適切に処理するとともに, その成果を的確に処理する。				
			知識理解	電気基礎に関する基礎的・基本的な知識を身に付け, 現代社会における工業の意義や役割を理解している。				
前年度に履修すべき科目		電気基礎	評価方法	1. 定期考査により, 電気基礎に関する基礎的な知識と技術を確認に身に付けているかを評価する。				
同時に履修すべき科目		なし		2. 課題やノートなどの提出物により, 関心・意欲・思考を評価する。				
継続で履修すべき科目		—		3. 授業時の学習状況を観察し, 意欲・態度を評価する。				

教科 工業 (電気)	科目 電子回路	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義 ○	演習 ○	実習	その他
電子回路 (コロナ社)		進路との関係・系列タイプ・資格など						
電子回路 (コロナ社)		情報通信技術系						
科目概要	<p>第2学年の電子回路で学習したことを基にして, トランジスタを用いた低周波増幅回路と高周波増幅回路, 1 K H z 以下の低い周波数から高い周波数の交流まで発生させることができる発振回路・F E T ・オペアンプなど, それぞれの原理や方法, 種類や特徴, 実際の回路などについて学ぶ。</p>	評価観点	興味意欲関心	電子回路に関する諸問題について関心を持ちその改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに創造的, 実践的な態度を身に付けている。				
			表現の能力	電子回路に関する基礎的・基本的な技術を身に付け, 環境に配慮し, 実際の仕事を合理的に計画し適切に処理するとともに, その成果を的確に処理する。				
			理解の能力	電子回路に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め, 基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し, 創意工夫する能力を身に付けている。				
			知識理解	電子回路に関する基礎的・基本的な知識を身に付け, 現代社会における工業の意義や役割を理解している。				
前年度に履修すべき科目		電子回路	評価方法	1. 定期考査により, 電子回路に関する基礎的な知識と技術を確認に身に付けているかを評価する。				
同時に履修すべき科目		なし		2. 課題やノートなどの提出物により, 関心・意欲・思考を評価する。				
継続で履修すべき科目		—		3. 授業時の学習状況を観察し, 意欲・態度を評価する。				
			以上の全てを総合的に判断して評価します。					

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態				
					講義	演習	実習	その他	
工業 (電気)	電力技術	2	3		○	○			
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など						
7実教「工業350電力技術1」			電気エネルギー技術系						
科目概要	送電（送電方式，送電線路，送電の運用），配電（配電系統の構成，配電線路の電気的特性），自家用電気設備について学び基礎的な技術を理解させる。			興味 意欲 関心	電力技術に関する諸問題について関心を持ちその改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに創造的，実践的な態度を身に付けている。				
					評価 観点	表現の 能力	電力技術に関する基礎的・基本的な技術を身に付け，環境に配慮し，実際の仕事を合理的に計画し適切に処理するとともに，その成果を的確に処理する。		
						理解の 能力	電力技術に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し，創意工夫する能力を身に付けている。		
						知識 理解	電力技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，現代社会における工業の意義や役割を理解している。		
前年度に履修すべき科目		電力技術		評価 方法	1. 定期考査により，電力技術に関する基礎的な知識と技術を確実に身に付けているかを評価する。 2. 課題やノートなどの提出物により，関心・意欲・思考を評価する。 3. 授業時の学習状況を観察し，意欲・態度を評価する。				
同時に履修すべき科目		なし							
継続で履修すべき科目		—							

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態				
					講義	演習	実習	その他	
工業 (電気)	(3年選択A・B)電子計測制御	2	3		○	○			
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など						
実教(工業358) オムロンテクニカルガイド			情報通信技術系は選択Aで，電気エネルギー技術系は選択Bで選択履修						
科目概要	電子計測制御に関する知識と技術を習得させ，コンピュータによる電子計測やネットワーク化された電子計測システムなどを実際に活用する能力と態度を育てる。 演習や考査等で生徒の理解度を確認しながら学習を適宜進める。  科目内容 電子計測制御の概要 1 電子計測制御の考え方 2 センサとアクチュエータ シーケンス制御 1 シーケンス制御の基礎 2 シーケンス制御に使われる機器 3 シーケンス制御の基本回路 4 プログラマブルロジックコントローラ フィードバック制御 1 フィードバック制御の基礎 2 信号の伝達と伝達関数 3 フィードバック制御システムの応答と安定性 4 フィードバック制御システムの制御装置			興味 意欲 関心	制御に関することらについて関心を持ち自らで考え，意欲的に取り組もうとする態度を身に付けている。				
					評価 観点	表現の 能力	制御に関する実例を参考に自ら思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し，創意工夫する能力を身に付けている。		
						理解の 能力	制御に関する基礎的・基本的な技術を身に付け，自ら課題を作り，回路図を組み，その動きについて理解した上で，発表を通して，他者に理解してもらうことができているか。		
						知識 理解	制御に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，制御技術が現代社会における意義や役割を理解している。		
前年度に履修すべき科目		なし		評価 方法	・定期考査5回および課題考査 ・課題やノートなどの提出物 ・出席状況や授業態度  以上の全てを総合的に判断して評価します。				
同時に履修すべき科目		なし							
継続で履修すべき科目		—							

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態				
					講義	演習	実習	その他	
工業 (電気)	(3年選択A) 電気機器	2	3		○	○			
教材費・準備物等				進路との関係・系列タイプ・資格など					
7実教「工業378電気機器」				電気エネルギー技術系					
科目概要	発電機、電動機、変圧器およびこれらに付属する機器について、原理・構造・特性、およびこれらに用いられている電気材料や取り扱いなどを学習する。			興味意欲 関心	発電機・電動機・変圧器等に興味関心を持ち積極的に学ぼうとする意欲がありまじめに学習している姿勢が伺える。				
					評価観点	表現の能力	電気機器に関する諸問題について自ら解決しようとする意欲を持ち物事を的確に判断し学習する能力を備えている。		
						理解の能力	電気機器を操作できる知識を十分に持っており安全にかつ正確に取り扱えることが実際の運転時にできるように学習している。		
						知識理解	発電機・電動機・変圧器等の原理構造等をよく理解しており各々の特性についても知識があり用途別の応用方法もしっかり理解できている。		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査5回および課題考査</li> <li>・課題やノートなどの提出物</li> <li>・出席状況や授業態度</li> </ul> 以上の全てを総合的に判断して評価します。								
前年度に履修すべき科目	電気機器								
同時に履修すべき科目	なし								
継続で履修すべき科目	—								

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態				
					講義	演習	実習	その他	
工業 (電気)	(3年選択B) ネットワークシステム	2	3		○	○			
教材費・準備物等				進路との関係・系列タイプ・資格など					
				情報通信技術系					
科目概要	1. 急速に発展していく現代の情報社会において、その通信の仕組みや理論を理解し、専門的知識を身につけるとともに、ネットワークの運用を出来るようにさせる。  2. 様々なネットワークの形態を理解するとともに、その保守や整備、悪意のあるソフトウェアに対する対応についても知識を深め、実生活でも役立たせる。			興味意欲 関心	ネットワークの運用と役割について関心を持ち、その利便性や問題点に関して自ら意欲的に取り組むとともに創造的、実践的な態度を身に付けている。				
					評価観点	表現の能力	ネットワークに関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な解決策を身につける。		
						理解の能力	ネットワークの仕組みや、どのような動作しているのかを、1つ1つ理屈を正しく理解していく。		
						知識理解	ネットワークに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における情報社会への対応力を身につける。		
評価方法	1. 定期考査により、ネットワークシステムに関する基礎的な知識と技術を確実に身に付けているかを評価する。 2. 課題やノートなどの提出物により、関心・意欲・思考を評価する。 3. 授業時の学習状況を観察し、意欲・態度を評価する。								
前年度に履修すべき科目									
同時に履修すべき科目									
継続で履修すべき科目	—								



教科 工業 (建築)	科目 課題研究	単位数 3	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
							○	産学連携
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
各テーマごとに必要に応じて準備								
科目概要	下記の5テーマについて、その課題解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の進化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な取り組みを行う。 【設計コンペ】 高校生の「建築甲子園」や大学・専門学校等が行う建築設計コンペに向けて作品づくりに取り組む。 【模型】 「加古川中央市民病院」や有名建築物、自分が設計した建物の模型作りに取り組む。 【建築大工】 大工技能の修得に努め東屋づくりを手掛けるとともに、地域から要望を受けや修理・修繕にも取り組む。 【木工】 木工作品の商品開発に取り組み、近隣店舗での販売を目指す。 【通年型インターンシップ】 産学連携教育として、実際の建築現場に出向き、プロから専門的な技術・技能を学ぶ。		評価観点	関心意欲態度	それぞれのテーマに関心をもち、課題解決に向けて意欲的な取り組みがみられる。			
	思考判断表現	諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力、表現力が身に付いている。						
	技能	基礎的・基本的な知識と技術を身に付け安全や環境に配慮し、作業内容を合理的に計画し、適切に処理する技能が修得できている。						
	知識理解	作業遂行上の創意工夫・レポート内容。また、工業の意義や役割を理解している。						
前年度に履修すべき科目		実習		評価方法	上記の観点に基づき、 ・提出物 ・出席状況 ・授業中の取り組み状況 等を総合的に評価する。			
同時に履修すべき科目		実習						
継続で履修すべき科目		—						

教科 工業 (建築)	科目 実習	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
							○	
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
各テーマごとに必要に応じて準備			初級CAD検定					
科目概要	下記の3テーマについて、3班がローテーションで順次行っていく。 【CAD】 2年生で学んだ基本的な知識や操作方法を活かし、より実践的な建築図面の作成を行う。 【模型】 平家建住宅の軸組模型（S=1/30）作りに取り組みながら、部材の名前や構造を理解する。 【測量】 2年間で学んできた測量技術を駆使して、縄張り、遣り方などの工事測量を理解する。		評価観点	関心意欲態度	興味関心をもち、意欲的に取り組もうとする姿勢がみられる。			
	思考判断表現	基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力、表現力、実践力が身に付いている。						
	技能	基本的な知識と技術を身に付け安全や環境に配慮し、作業内容を合理的に計画し、適切に処理する技能が修得できている。						
	知識理解	基本的な知識と技術が身につけており、求められていることを理解したうえで、先を読んで準備・行動することができる。						
前年度に履修すべき科目		実習		評価方法	上記の観点に基づき、 ・提出物 ・出席状況 ・授業中の取り組み状況 等を総合的に評価する。			
同時に履修すべき科目								
継続で履修すべき科目		—						

教科 工業 (建築)	科目 製図	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
教材費・準備物等					進路との関係・系列タイプ・資格など			
建築設計製図 (実教出版)								
科 目 概 要	① 下記の構造に関する基本的な図面をトレースし、総合的にまとめる能力を身につけるように学習する。また、製図を通して、図面を読む力の育成を図る。  【鉄筋コンクリート構造】 店舗付事務所設計図 ・製図例 5-1 配置図, 平面図 ・製図例 5-2 立面図, 断面図 【鋼構造】 店舗付事務所設計図 ・製図例 9-2 カナバカリ図  ② 卒業設計として、加古川駅周辺の鉄道高架下建築物の企画・設計を行う。		評価観点	関心意欲態度	興味関心をもち、意欲的に取り組もうとする姿勢がみられる。			
				思考判断表現	基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力、表現力、実践力が身に付いている。			
				技能	基本的な知識と技術を身に付け、適切に処理する技能が修得できている。			
				知識理解	基本的な知識と技術が身につけており、図面を理解して作図することができる。			
前年度に履修すべき科目		製図		評価方法	上記の観点に基づき、 ・提出物 ・出席状況 ・授業中の取り組み状況 等を総合的に評価する。			
同時に履修すべき科目		(3年選択B) 製図の履修が望ましい						
継続で履修すべき科目		—						

教科 工業 (建築)	科目 建築構造	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
教材費・準備物等					進路との関係・系列タイプ・資格など			
建築構造 (実教出版)					2級建築施工管理技士 [学科]			
科 目 概 要	鉄筋コンクリート構造 1 構造の特徴と構造形式 2 鉄筋 3 コンクリート 4 基礎 5 躯体 6 仕上げ  壁式構造  プレストレストコンクリート構造  鋼構造 1 構造の特徴と構造形式 2 鋼と鋼材 3 鋼材の接合 4 基礎 5 骨組 6 仕上げ 7 軽量鋼構造と鋼管構造 8 鉄骨鉄筋コンクリート構造		評価観点	関心意欲態度	建築構造に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身に付けようとしている。			
				思考判断表現	建築構造に関する基礎的な知識と技術をもとに実際の建築構造技術について考え、また諸問題を発見し、その解決を目指して自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫、表現する能力を身に付けようとしている。			
				技能	建築構造に関する基礎的な知識や技術を習得するとともに、実際の建築現場を観察、または、想定し、実務的な技能を獲得することができる。			
				知識理解	各種工法を正しく理解し、他の科目との関連性を知ることにより、効果的に学習できることを理解することができる。			
前年度に履修すべき科目		建築構造		評価方法	上記の観点に基づき、 ・考査 ・提出物 ・出席状況、授業中の取り組み状況 等を総合的に評価する。			
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		—						

教科 工業 (建築)	科目 建築施工	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義 ○	演習	実習	その他
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
建築施工 (実教出版)			2級建築施工管理技士 [学科]					
科目概要	<p>建築生産 (企画→計画→設計→施工) の最終過程として、どのような人が携わり、どのように工事を進めていくか学ぶ。また、工事を進める上で必要な施工管理法についても学び、集大成として2級建築施工管理技士 [学科] 合格を目指す。</p> <p>基本的な内容は以下の通りである。</p> <p>1章 建築施工のあらまし 2章 工事の準備 3章 地面から下の工事 4章 躯体の工事 5章 仕上げの工事・設備の工事 6章 建築物の維持保全 7章 工事契約と施工管理 8章 建築工事費の算出</p>		評価観点	関心意欲態度	建築施工に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身に付けようとしている。			
	思考判断表現	建築施工に関する基礎的な知識と技術をもとに実際の建築生産技術について考え、また諸問題を発見し、その解決を目指して自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫、表現する能力を身に付けようとしている。						
	技能	建築施工に関する基礎的な知識や技術を習得するとともに、実際の建築現場を観察し、演習・実習において、実務的な技能を活用することができる。						
	知識理解	建築工事に関する各種の工法、工事管理、積算など建築施工に関する基礎的な知識と技術を身に付け、建築生産技術の意義や役割を理解しようとしている。						
前年度に履修すべき科目			評価方法	上記の観点に基づき、 ・提出物 ・出席状況 ・授業中の取り組み状況 等を総合的に評価する。				
同時に履修すべき科目								
継続で履修すべき科目		—						

教科 工業 (建築)	科目 建築法規	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義 ○	演習	実習	その他
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
建築法規 (実教出版) 建築基準法令集			2級建築施工管理技士 [学科]					
科目概要	<p>建築の設計・工事に直接関係するルールや基準を定めている建築基準法を中心に、これに密接に関係するその他の法規を学ぶ。2級建築施工管理技士 [学科] 合格を目指す。</p> <p>基本的な内容は以下の通りである。</p> <p>1章 建築法規のあらまし 2章 個々の建築物にかかわる規定 3章 良好な都市環境を作るための規定 4章 手続きなどの規定 5章 各種の関係法令</p>		評価観点	関心意欲態度	建築法規に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身に付けようとしている。			
	思考判断表現	建築法規に関する基礎的な知識と技術をもとに実際の建築生産技術について考え、また諸問題を発見し、その解決を目指して自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫、表現する能力を身に付けようとしている。						
	技能	建築法規に関する基礎的な知識や技術を習得するとともに、実際の建築現場を観察し、演習・実習において、実務的な技能を活用することができる。						
	知識理解	建築工事に関する各種の工法、工事管理、積算など建築施工に関する基礎的な知識と技術を身に付け、建築生産技術の意義や役割を理解しようとしている。						
前年度に履修すべき科目			評価方法	上記の観点に基づき、 ・提出物 ・出席状況 ・授業中の取り組み状況 等を総合的に評価する。				
同時に履修すべき科目								
継続で履修すべき科目		—						

教科 工業 (建築)	科目 (3年選択A) 建築計画	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義 ○	演習	実習	その他
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
建築計画 (実教出版)								
科目 概要	<p>建築計画に関する基礎的な知識と技術を習得させ、建築物を合理的に計画し、設計する能力と態度を育てる。 今までの建築計画の知識を元に、明日の建築を創造していく基礎的要素を理解し、我が国ならびに西洋の過去から現代に至る建築の移り変わりの過程を学ぶ。</p> <p>第5章 建築設備の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築設備の目的と内容</li> <li>・建築設備の基本事項</li> <li>・給排水・衛生設備</li> <li>・雨水利用・排水再利用</li> <li>・ガス設備</li> <li>・空調調和・換気設備</li> <li>・電気設備</li> <li>・防災設備</li> <li>・搬送設備</li> </ul> <p>第6章 建築の移り変わり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の建築</li> <li>・西洋の建築</li> <li>・近代の建築</li> <li>・現代の建築</li> </ul>		評価 観点	<p>関心 意欲 態度</p>	建築計画に関する基礎的な知識について関心をもち、意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身に付けようとしている。			
	<p>思考 判断 表現</p>	建築計画についての進め方と考え方について具体的に展開でき、その技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。						
	<p>技能</p>	建築計画に関する基礎的な知識や技術を習得するとともに住宅の設計例を通して、建築物を計画し、設計へと具体化できる。						
	<p>知識 理解</p>	建築物の役割と建築を規定する諸要素を知り、建築に対する正しい考え方を認識できる。						
		評価 方法	上記の観点に基づき、					
			・考査					
			・提出物					
			・出席状況、授業中の取り組み状況等を総合的に評価する。					
前年度に履修すべき科目		なし						
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		—						

教科 工業 (建築)	科目 (3年選択B) 製図	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義	演習	実習 ○	その他
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
自作教材								
科目 概要	<p>これまでの学習をもとに、再度、実例を通じて、卒業設計に取り組み、建築物設計順序・方法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築計画や建築構造等の他の専門(建築)科目との関連性を図り、計画方法及び構造を理解させ、設計できる能力を養う。</li> <li>・これまで学習した建築の作図法を応用し、ある条件の制約のもとでの設計ができるようになる。</li> <li>・実例の研究や資料収集をし、建築物のイメージを構築できる力を身につけさせる。</li> <li>・イメージを形にしていく方法を養う。</li> <li>・要求された図面を描くとともに、その表現方法(プレゼンテーション方法やレイアウトの手法など)を理解する。</li> </ul>		評価 観点	<p>関心 意欲 態度</p>	自分が設計する建築物を表現するための必要図面や縮尺について理解する。			
	<p>思考 判断 表現</p>	エスキスにおいて、平面計画・構造計画が適切にされている。						
	<p>技能</p>	設計意図が他者に理解されるような表現で必要図面が作図されている。						
	<p>知識 理解</p>	設計意図がいろいろな表現方法を駆使してなされ、特に美しく見せることができている。						
		評価 方法	上記の観点に基づき、					
			・提出物					
			・出席状況					
			・授業中の取り組み状況等を総合的に評価する。					
前年度に履修すべき科目								
同時に履修すべき科目		(3年選択A)建築計画						
継続で履修すべき科目		—						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (土木)	課題研究	3	3			○		
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
科 目 概 要	【科目の目標】 工業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。 【橋梁模型コース】 橋梁模型コンテスト大会（神戸市・近畿建設業協会主催）等に出品するための設計と製作をする。 【ものづくりコース】 高校生ものづくりコンテスト近畿大会（測量競技部門）への取り組み 【コンクリートカヌーコース】 近畿高校土木会主催のコンクリートカヌー競技大会の参加に向けて作品の製作と高度な技術を養う。 【地域の出前修理・修繕コース】 飛び出し人形の製作をもとに地域の学校として担っていく。 【現場実習コース】 建設系の地域人材の育成をしていく。 【総合治水普及活動コース】 兵庫県土木と県下土木科6校が教育一貫活動のもと、総合治水普及のために模型製作をはじめ、小学生や県民の方に出前講座を行う。 【橋梁模型コース】 橋梁模型コンテスト大会（神戸市・近畿建設業協会主催）等に出品するための設計と製作をする。		評 価 観 点	関心 意欲 態度	諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組んでいる課題解決に向けた学習態度・出席状況（遅刻含む）・提出。			
	前年度に履修すべき科目	同時に履修すべき科目		継続で履修すべき科目	思考 判断 表現	諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。具体的には、質疑応答・観察力。		
					技能	基礎的・基本的な知識と技術を身に付け安全や環境に配慮し、提案内容・作業内容を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。		
			知識 理解	作業遂行上の創意工夫・レポート内容。また、工業の意義や役割を理解している。				
			評価 方法	上記の観点に基づき、 ・授業中の取り組み状況 ・出席状況 ・提出物 等を総合的に評価する。				

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (土木)	実習	4	3		○		○	
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
土木材料実験指導書（土木学会）、水理実験指導書（土木学会）、土質試験のてびき（土木学会）、パソコン利用検定（全工協）								
科 目 概 要	【科目の概要】 工業の各専門分野に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。 【授業計画】 ・測量実習 光波測距儀によるトラス測量・測量縦断測量・横断測量・路線測量・単心曲線の測設 ・材料実習 配合設計の計算・配合設計・コンクリート練り・品質管理 アスファルト配合設計 ・土質実習 土粒子の密度試験・土の粒度試験・土の液性限界・突固めによる締固め試験 ・水理実習 直角三角せきの検定・オフィスの流出実験・管水路の摩擦損失水頭の実験・水門からの流出実験 【参考文献】 測量 1・2（実教出版）		評 価 観 点	関心 意欲 態度	・土木技術に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組もうとしている。 ・各作業の基本的事項を理解し、作業方法を身に付けようとしている。			
	前年度に履修すべき科目	同時に履修すべき科目		継続で履修すべき科目	思考 判断 表現	・土木技術に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組もうとしている。 ・各作業の基本的事項を理解し、作業方法を身に付けようとしている。		
					技能	・実際の作業を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。 ・基礎的な技術を身に付けそれらの器具・装置を活用している。		
			知識 理解	・測量機器や器具を活用した基礎的・基本的な知識と技術を理解している。 ・土木の発展と環境との調和の取れた在り方や情報の意義や役割を理解している。				
			評価 方法	上記の観点に基づき、 ・授業中の取り組み状況 ・出席状況 ・提出物等を総合的に評価する。				

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (土木)	製図	2	3			○		
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
土木製図（実教出版）								
科目概要	<p>【科目の目標】 日本工業規格及び土木専門分野の製図についての規約に基づき基礎的な知識と技術を習得する。</p> <p>【授業計画】 カルバート鉄筋配筋図 図面に描かれていることを理解して、正確、丁寧に写図する。 頂版図・側壁図の連関を把握し、正確に作図するとともに、鉄筋の配筋および設計について理解する。 A1のケント紙に写図をする。鉄筋の配置や形状を理解し、線の種類、太細線を区別し製図に用いる文字を的確に表現する。 CAD 座標入力・補助線及び、円・接線・角を丸める・面取り・中心線等、各コマンドの機能を理解する。</p> <p>側溝擁壁標準図 基本的手順をもとに作図作業を行う。</p> <p>製図例2-5 橋脚構造一般図 作図作業を通して図面を正確に読図する能力を養う。</p>	<p>評価観点</p> <p>関心意欲態度 土木製図に関する規格について関心を持ち、正確に、速く、きれいに描こうとする意欲がある。</p> <p>思考判断表現 土木構造物を図面を通して形や大きさ等を考え、適切な縮尺により図面を描くことができる能力を身につけ、適切な表現ができる。</p> <p>技能 基本的な製図規格を理解し、図面に応じた文字・数字・線種の使い分けができる。</p> <p>知識理解 土木構造物の計画、設計、施工などに関連していることを理解し、土木製図の意義や社会的役割の重要性を考え図面を描くことができる。</p>	<p>評価方法</p> <p>1. 基礎的な知識と技術を確実に身に付けているかを評価する。 2. 製図の提出により、関心・意欲・思考を評価する。 3. 授業時の学習状況を観察し、意欲・態度を評価する。</p>					
				前年度に履修すべき科目	製図			
				同時に履修すべき科目	なし			
				継続で履修すべき科目	—			

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (土木)	土木基礎力学	2	3		○			
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
土木基礎力学2（実教出版） 水理学・土質力学の基礎（実教出版）			土木施工管理技術検定の学習含む					
科目概要	<p>【授業計画】</p> <p>1. 水の物理的性質……水の性質・表面張力と毛管現象</p> <p>2. 静水圧 ……静水圧・平面に作用する全水圧・浮力と浮体</p> <p>3. 水の流れ ……流速と流量・流れの種類・ベルヌーイの定理・損失水頭・流量測定</p> <p>4. 管水路……摩擦以外の損失水頭・単線管水路・合流・分流する管水路</p> <p>5. 開水路……開水路の流れ・等流・常流と射流・開水路の損失水頭</p> <p>6. 土質力学の基本 ……土の調査と試験・土の構成と状態の表し方・土の種類・土の締固めの性質</p> <p>7. 地中の応力 ……土に働く応力・荷重による垂直方向の増加応力</p> <p>8. 土の圧密……圧密現象と圧密試験</p> <p>9. 土の強さ……土のせん断強さ・せん断試験</p> <p>10. 土圧……土圧・クーロン土圧</p> <p>11. 地盤の支持力 ……基礎と支持力・浅い基礎の支持力・杭基礎の支持力</p> <p>12. 斜面の安定……斜面の破壊</p> <p>【参考文献】 図解2級土木施工管理技士試験（実教出版） 土木施工技術者試験 問題とその解説（土木施工管理技術研究会）</p>	<p>評価観点</p> <p>関心意欲態度 水と土の力学的性質に関心を持ち、意欲を持って水の流れや、土の力学的性質を理解しようとする態度を身に付けている。</p> <p>思考判断表現 水と土の力学的性質を理解し、土木工事にどのように役立っているか、創意工夫する能力を身に付けている。</p> <p>知識理解 水と土は一体化し、土木構造物として機能していることを理解できる。</p>	<p>評価方法</p> <p>毎授業時に板書と宿題チェック 学期に2回のノート提出・定期考査 授業態度 等を総合的に評価</p>					
				前年度に履修すべき科目	土木基礎力学			
				同時に履修すべき科目	土木構造設計			
				継続で履修すべき科目	—			

教科 工業 (土木)	科目 土木施工	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義 ○	演習	実習	その他
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
土木施工 (実教出版)		土木施工管理技術検定の学習含む						
科 目 概 要	第5章 舗装工 1. アスファルト舗装 2. コンクリート舗装 3. 舗装の維持・修繕	評 価 観 点	興 味 意 欲 関 心	土木技術を具現化するための施工方法に関心を持ち、意欲的にそれらを探求する態度を身に付けようとする。				
	第6章 トンネル工 1. 山岳トンネル工法 2. シールド工法 3. 開削工法・沈理工法 4. 推進工法			土木技術に関する施工法に問題を見出し、実例や土木工事の見学などを通して、社会資本の整備という観点から総合的に考え、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。				
	第7章 いろいろな施工技術 1. 上下水道 2. ダム 3. 橋梁 4. 河川 5. 砂防 6. 港湾 7. 海岸			土木工事の大部分が公共工事であることを自覚し、その工事に従事する技能・技術力を安全や環境に配慮して、社会資本の整備に生かす技術を適切に活用している。				
	第8章 工事用機械と工事用電気設備 1. 工事用機械の動力 2. 工事用機械 3. 工事用電気設備			土木工事のあり方について、環境に対する配慮を関連させながら、適切な工法を選定し、安全で経済的な工事を進める知識を身に付けている。また、土木施工管理技士の資格試験にも対応できる知識と能力を身につける。				
第9章 工事のしくみと管理 1. 工事のしくみ 2. 施工計画 3. 工事の見積り 4. 工事の管理 5. 工程管理 6. 品質管理 7. 安全衛生管理 8. 原価管理	評 価 方 法	1. 定期考査により、土木施工に関する基礎的な知識と技術を確実に身に付けているかを評価する。 2. 課題やノートなどの提出物により、関心・意欲・思考を評価する。 3. 授業時の学習状況を観察し、意欲・態度を評価する。						
第10章 土木法規 1. 労働基準法 2. 労働安全衛生法 3. 建設業法 4. 環境保全関連法規 5. その他の関係法規								
前年度に履修すべき科目		工業数理基礎						
同時に履修すべき科目		土木基礎力学						
継続で履修すべき科目		—						

教科 工業 (土木)	科目 (3年選択A) 播磨の地質と耐震	単位数 2	開講年次 3	定員	授業形態			
					講義 ○	演習	実習	その他
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
科 目 概 要	(1) はじめに 阪神・淡路大震災を通して、世界の災害を通して、土木技術者の心構え、人々との協力	評 価 観 点	興 味 意 欲 関 心	防災についての関心を持ち、将来発生する可能性のある災害に対応するために必要な知識と技術の修得に、意欲的に取り組む。				
	(2) 地震関連の知識 地震の種類、地震災害の用語			防災に関しての基礎・基本的な知識を身につけ、日常の災害に関するデータも参考資料として諸問題の解決を目指し、自ら考え創意工夫する能力を身につける。				
	(3) 阪神・淡路大震災と東日本大震災から学ぶ事 ライフライン、災害時の判断、防災を踏まえた町づくり			実際のあらゆる場所において、計画的又は、咄嗟的においても物事を冷静に、考えて合理的に、適切に処理することができる。				
	(4) 地震災害および防災 (5) 写真測量 空中写真測量の工程、空中写真測量の性質、オーバーラップ・サイドラップ、空中写真の縮尺、写真像のひずみ			防災に関しての基礎・基本的な知識を身につけ、地域社会や生活環境における防災の意義や役割を理解する。				
(6) 路線測量 単心曲線、クロソイド曲線、縦断曲線	評 価 方 法	1. 定期考査により、防災に関する基礎的な知識と技術を確実に身に付けているかを評価する。 2. 課題やノートなどの提出物により、関心・意欲・思考を評価する。 3. 授業時の学習状況を観察し、意欲・態度を評価する。						
(7) 地形測量 地形図の作成、等高線の利用、縦断面図の作成								
(8) 環境 (世界・日本・播磨) 環境について各種の地形図から学ぶ								
(9) 地質と地盤 世界各国の地質、日本の地質、播磨の地質 (10) 地震災害の予防と対策								
前年度に履修すべき科目	測量・土木施工							
同時に履修すべき科目	土木施工							
継続で履修すべき科目		—						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (土木)	(3年選択B) 土木構造設計	2	3		○			
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
土木構造設計 (実教出版)			土木施工管理技術検定の学習含む					
科 目 概 要	第1章 土木構造物のあらまし 1. 土木構造物のあらまし 2. 土木構造物の材料とその特徴と性質 3. 設計に用いるおもな荷重 4. 土木構造物の鋼材の加工	評 価 観 点	関心 意欲 態度	土木構造物の構造や安全性に興味・関心をもち、土木構造設計の学習に意欲的に取り組むとともに、将来において土木技術者の一員として多様な構造部材の設計に挑む心構えと態度、知識を身につけようとしている。				
	第2章 鋼構造物の設計 1. H形鋼を用いた道路橋の設計 2. プレートガーダー橋の設計		思考 判断 表現	土木構造物の設計に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、基準を遵守した設計を行い、土木構造物の安全性を判断できる能力を身につけている。				
	第3章 鉄筋コンクリート構造物の設計 1. 鉄筋コンクリート長方形梁の設計 2. 鉄筋コンクリート柱の設計 3. 鉄筋コンクリートT形梁の設計		技能	土木構造物の設計を進める手順を理解できるとともに、構築する環境により設計条件が変わっても計算できる能力を身につけている。				
			知識 理解	土木構造設計に関する知識と技術を活用して、土木構造物の安全性についての確に判断できる設計能力を身につけている。				
	前年度に履修すべき科目	土木基礎力学	評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査5回および課題考査・小テスト</li> <li>・課題やノートなどの提出物</li> <li>・出席状況や授業態度</li> </ul>				
同時に履修すべき科目	土木基礎力学	以上の全てを総合的に判断して評価します。						
継続で履修すべき科目	—							